

在宅介護実態調査結果からの傾向と課題

1 主な介護者が行っている介護について

	結果の概要	傾向と課題
8P 図表 1-6	(1) 主な介護者が行っている介護 ・主な介護者が行っている介護は、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が81.7%、「外出の付き添い、送迎等」72.1%、「食事の準備（調理等）」67.7%との順となっている。	・要介護度の進行により、生活的な援助から身体的な介護になっている。 ・夜間の排泄など、家族の介護負担が考えられる。 ○本人、家族の状況にあった適切なサービスの導入ができるケアマネジメントの実施
79P 図表 5-1	・要介護度別にみると、要支援1・2では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が77.1%、「外出の付き添い、送迎等」75.0%、「食事の準備（調理等）」57.3%の順となっている。 ・要介護1・2では、「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が79.2%、「外出の付き添い、送迎等」76.6%、「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」75.3%の順となっている。 ・要介護3以上では、「食事の準備（調理等）」92.0%、「服薬」「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」「金銭管理や生活面に必要な諸手続き」が88.0%、「衣類の着脱」80.0%の順となっている。 ・要介護3以上では、「排泄」「食事の介助」「身だしなみ」「衣服の着脱」などの項目が増えている。	

2 介護のための離職について

	結果の概要	傾向と課題
10P 図表 1-7	・「介護のために仕事を辞めた家族・親族はない」は88.6%となっている。	・介護のために離職や転職はほぼない。
20P 図表 2-1	・主な介護者の勤務形態は、「フルタイム勤務」と「パートタイム勤務」を合わせると47.6%となっている。	・主な介護者の約半数が、働きながら介護を行っている。
21P 図表 2-2	・主な介護者の方の働き方の調整の状況として半数以上の方が、何らかの調整を行っている。	・介護度が上がるにつれて、就労継続に困難さを感じている人が多い。
52P 図表 2-11	・介護者就労継続見込を要介護度別にみると、要支援1～要介護1では、「問題なく続けていける」が36.2%、「問題はあるが何とか続けていける」が39.1%となっている。 ・要介護2以上では、「問題なく続けていける」が13.3%となっており、23.2ポイント減少しており、「続けていくのは、やや難しい」と「続けていくのはかなり難しい」を合わせると20.0%となっている。	○介護保険の在宅サービスの充実 ○包括的・継続的なケアマネジメント支援 ○声かけや見守りを行える地域住民がともに支え合う体制づくり

3 保険外の支援・サービスの利用状況

在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス

	結果の概要	傾向と課題
11P 図表 1-8	・「保険外の支援・サービスの利用をしていない」は、76.2%となっており、「配食」を利用している人が7.5%となっている。	・「保険外の支援・サービス」は必要と感じているが、利用していない割合が高い。
12P 図表 1-9	・「在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス」は、「配食」「掃除・洗濯」「買い物」「外出同行」「移送サービス」「見守り、声かけ」がいずれも1割前後となっている。	・単身者や介護度が高くなると、生活支援の必要性が高くなると考えられる。
56P	・介護者がフルタイム勤務の場合、「保険	○インフォーマルサービスの周知 ○インフォーマルサービスを組み込み、多様なニーズに対応できるケアマネジメント ○地域住民がともに支え合う体制づくり

図表 2-17	<p>外の支援・サービスの利用をしていない」は、76.4%となっており、「配食」を利用している人が13.9%となっている。</p> <p>57P</p>
図表 2-18	<p>・「在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス」は、「配食」「外出同行」「移送サービス」が2割前後となっている。</p>
図表 3-2	<p>63P</p> <p>・世帯類型別の場合、「在宅生活の継続のために充実が必要な支援・サービス」は、単身世帯のニーズが高く、「配食」「掃除・洗濯」「買い物」「外出同行」の割合が高く、身の回りの支援が必要になる人が多い。</p>

4 施設等の検討状況について

	結果の概要	傾向と課題
図表 1-10	<p>13P</p> <p>・「検討していない」が78.1%となり、前回の調査と比較すると7ポイント増加している。</p>	<p>・「検討していない」の割合が高いことから在宅生活を継続したい希望が多いと考えられる。</p>
図表 1-1	<p>37P</p> <p>・要介護度別・世帯類型別でみると「施設等検討の状況」は、いずれの世帯類型も要介護度が高くなるに伴い、「検討していない」が減少している。</p>	<p>○介護保険の在宅サービスの充実</p> <p>○地域住民がともに支え合う体制づくり</p>

5 本人の抱えている傷病について

	結果の概要	傾向と課題
14P 15P 図表 1-11	・本人の抱えている傷病は、「認知症」22.6%、「筋骨格系疾患」19.6%、「糖尿病」19.2%となっており、前回と比較しても順番に変わらない。	・「認知症」になると介護度が高くなり、医療機関受診等も難しくなる。 ○医療・介護サービスを一体的、包括的に提供できる体制づくり
82P 図表 5-5	・要介護度別でみると、要支援1・2では、「筋骨格系疾患」が25.9%、要介護1・2では、「認知症」が42.9%と最も高くなっている。要介護3以上になると「脳血管疾患」「心疾患」なども高くなっている。	○生活習慣病予防（関係課との連携）
83P 図表 5-6	・訪問診療の利用があるもので、「認知症」が最も高く、34.4%となっている。	

6 介護サービスの利用について

	結果の概要	傾向と課題
18P 図表 1-14	・介護保険サービス利用については、「利用していない」が20.8%となっている。 ・介護サービスの未利用の理由は、「本人にサービス利用の希望がない」が47.3%と最も高く、次いで、「サービスを利用するほどの状態ではない」が27.3%となっている。	○本人が希望した際に、スムーズにサービスが利用できるような体制づくり

7 在宅生活の継続に向けて、主な介護者が不安に感じている介護について

	結果の概要	傾向と課題
26P 図表 2-5	・主な介護者が不安に感じている介護は、「夜間の排泄」「認知症状への対応」が23.1%と高くなっており、次いで「入浴・洗身」19.7%、「日中の排泄」16.2%となっている。	・要介護度や認知症自立度が高くなるにつれ、認知症状への対応や排泄介助に不安を感じる割合が高くなっている。 ・日中、夜間を通して包括的な支援が必要と考える。

39P 図表 1-4	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護度別にみると、要支援1・2では、「入浴・洗身」「外出の付き添い、送迎等」17.0%、「夜間の排泄」12.8%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「認知症症状への対応」に関して、不安や困り感を感じている家族がおり、生活する上での相談できる環境づくりが必要であると考える。
41P 図表 1-6	<ul style="list-style-type: none"> ・要介護1・2では、「認知症状への対応」40.3%と最も高く、次いで、「夜間の排泄」26.0%、「入浴・洗身」が20.8%となっている。 ・要介護3以上では、「日中の排泄」「夜間の排泄」が48.0%、「屋内の移乗・移動」20.0%、「認知症状への対応」が16.0%となっている。 ・認知症自立度別でみると、自立Ⅱでは、「認知症状への対応」が40.0%と最も高く、「夜間の排泄」31.3%、「日中の排泄」21.3%となっている。 ・自立度Ⅲ以上では、「夜間の排泄」「認知症状への対応」が33.3%、「日中の排泄」が26.7%となっている。 ・夜間の排泄に不安を感じている場合、通所系・短期系などのサービスを利用されているかたが多い。 	<ul style="list-style-type: none"> ○介護者の不安の軽減し、在宅限界点を向上させるために必要な支援や一体的・包括的なサービス提供基盤の充実 ○認知症のかたを介護する家族等に対する支援の充実

8 サービス利用の組み合わせについて

	結果の概要	傾向と課題
31P 図表 3-4	<ul style="list-style-type: none"> ・サービス利用は「通所系のみ」が37.5%と最も高く、次いで、「訪問+通所」17.4%、「訪問系のみ」が12.6%となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護度が上がると、通所が困難になり、訪問系に移行していく傾向がみられる。

<p>43P 図表 1-8</p>	<p>・要介護度別のサービス利用の組み合わせでは、すべての項目で「通所系のみ」が多く、要介護1・2では、「訪問+通所」24.7%と次いで高く、要介護3以上では、「訪問系のみ」が25.8%と高くなる。 また、要介護3以上では、「小規模多機能」が12.9%となり、他の介護度と比較すると大幅に増えている。</p>	<p>・多様なニーズや介護者の負担の軽減を考え、「小規模多機能」や「短期」などのサービスを利用されていると考えられる。 ○本人や介護者の多様なニーズに対応できるケアマネジメント支援</p>
<p>44P 図表 1-9</p>	<p>・認知症自立度別のサービス利用の組み合わせでは、自立+Ⅰでは、「通所系のみ」が43.3%、「訪問+通所」が14.9%となっている。 Ⅱでは、「通所系のみ」が37.4%、「訪問+通所」が25.3%となっている。 Ⅲ以上では、「訪問系のみ」29.4%、「通所系のみ」「通所+短期」「小規模多機能」が17.6%となっている。</p>	